

全科協ニュース

URL <http://jcsn.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110-8718 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成14年5月1日発行（通巻第184号）

平成13年度全科協海外科学系博物館視察研修報告

平成13年度の全科協海外視察研修は、平成14年1月13日から2週間にわたり、欧州（フランス、オランダ、ドイツ、オーストリア）の主要な博物館で行なった。今回は全国から26名が視察研修に参加した。

前年にならない全科協事務局から視察研修する各博物館に事前に依頼状と質問事項を送り、各館の基礎的なデータを入手することとした。事務局の訪問館への手配とあわせて、出発前に事前研修会を行い、視察研修する館の広報資料を入手するなど予備知識を確認した。また、今回の参加者の博物館業務等との関わりや、関心のある事項をもとに、管理・運営、展示、教育活動の3つのグループに分かれて調査事項について検討をした。限られた研修日程のなかで各館の対応者と効率良く意見交換が出来るように、グループ毎に視察研修の計画を立てた。

ここでは、参加者各自の視察研修テーマに基づいて、管理・運営、展示、教育活動の各グループで取りまとめた報告をここに紹介する。

I. 管理・運営

【発見の宮殿（フランス）www.palais-decouverte.fr】

1900年のパリ万国博を記念して建造されたグラン・パレと呼ばれる大建造物の西側の一角を占める科学博物館。当初は、1937年の世界技術博覧会開催中の展示会場であったが、6ヶ月で200万人を超えるほどの好評を博したため、ジャン・ペラン（ノーベル物理学賞受賞者）らの提唱により、科学の普及を目的とした常設の博物館としてスタートした。

館の目標としては、①科学的な知識を提供し、その普及を図る場とすること、②科学的研究者及び科学の研究自体にステイタスを与える場とすること、③科学の基礎について、学識や年齢に関わらず多くの人に理解してもらう場とすること、が挙げられていた。これらの目標に沿って運営

されており、職員による演示実験にも重点が置かれている。説明によると、「博物館」と捉えるのではなく、「体験学習の場（科学を実地に学ぶ場）」として捉えている、との事であった。

部門としては、天文・化学・物理・地球科学・生命の科学・数学の6つの部門がある。予算は、年間約1,500万ユーロであり、そのうち70%が国からの補助で運営されている。年間入館者数は、約60万人である。メインターゲットは、7歳から13歳ぐらいを対象としている。また、見学者観測として、曜日ごと・来館目的・来館回数等について調査を行い、運営に生かしている。

【科学産業都市（フランス）www.cite-science.fr】

パリ郊外ヴィレット公園の一角に文化通信省と国民教育研究技術省の連携により、1986年開館した博物館。面積約15万㎡、年間入館者数約350万人、予算は年間約1億ユーロ、そのうち約80%が国からの補助で運営されている。

また、当館でも来館者の年齢やその構成等について、きちんと調査統計されている。当館の特徴としては、学校向けのプログラムを多く用意しているので、学校単位での来館が多く、「科学を楽しみながら学ぶ」ことを目標として運営されている。その内容としては、3歳から5歳向け、6歳から12歳向けの常設スペースがそれぞれあり、遊びながら科学を学べるようになっている。その他には、映画（プラネタリウム、ジオード、立体映画等）及びサービススペース（メディアライブラリー、職業都市（職探しをしている人向けの教育）、会議室等）が設けられている。また、フランス国内だけでなく国際的に、博物館に対しての指導助言といったコンサルタント業務も行っている。他に文部省と連携して、年に2日だけではあるが、当館において中学・高校の科学技術の先生を集めて最新の知識・技術について

の勉強会を開催している。

ミュージアムショップについては、スペースも確保されており充実しているショップであったが、日本とは違い、その中心は書籍が占めており、いわゆるお土産的なグッズは少ない商品構成であった。この点は、他の博物館も同様であり、博物館において興味を持ってもらい、書籍や資料によって知識を深めるという点が明確になっていた。

【ライデン博物館（オランダ）www.naturalis.nl】

1820年に化学技術研究所としてスタートし、1986年から博物館となり、1998年に完全オープンとなった。

目的は、自然科学のセンターとして、小中高及び大学生までを対象とした自然環境保全教育、また、文化面としてはコレクションの保存、他の科学博物館との協力、自然保護団体との協力、一般企業との連携（研修、イベント）、特別展（国内・国外の博物館との連携）の開催などが挙げられる。

展示品は、約1000万点、展示フロアごとにストーリーを持たせている。床面積25,000㎡、年間入場者数約25万人である。予算は、年間約1400万ユーロであり、うち85%が文部省からの補助金で運営されている。入館者の割合は、学校関係が10%、家族連れが65%、65歳以上が20%を占めている。ライデン市内の小学校は、1年に1回は当館に来ることになっているそうである。ミュージアムショップについては、他と同様に書籍が非常に充実していた。

当館の管理運営上の特徴としては、組織上きちんとマーケティング・PR部門を設けており、管理運営部門へのアドバイス、教育普及プログラムの作成及びオランダ社会の博物館に対してのニーズの調査等を行っている。また、そのような市場調査のほかに、来館者に対して必ずアンケートを実施している。内容は、来館の目的・どこから来たのか・年齢・グループ構成・博物館に何を期待するか等といった調査である。特別展等の時には必ず満足度調査も実施し、それらの結果を展示に生かすよう工夫されている。このように、社会や来館者のニーズをしっかりと把握し、将来にその結果を生かし、来館者の増加につなげていく努力が行われている。それと同時に、何度も来館していただけるように専門のチームを作り、その対応を検討させ、当館の新聞（3ヶ月に1回発行）を無料で送付する等の普及活動も行っている。これらの点は、他の博物館も同様に、非常に

きちんと市場調査を行い、その結果を踏まえ展示や普及活動にフィードバックさせるようにシステム化されている。その上で、館としての目標・ビジョンを明確にしているという印象を強く受けた。

【ゾイデル海博物館（オランダ）www.zuiderzeemuseum.nl】

1932年開館。現在は大堤防で閉じられアイセル湖と呼ばれるようになったかつてのゾイデル海の海岸沿いにある博物館。北海やゾイデル海、捕鯨、水との戦いなどの展示がある。通年オープンの屋内展示と4月から10月までオープンの屋外展示の2つに分かれている。屋外の展示は1880年から1930年までの湾岸沿いの村を132の建物で再現した展示にあり、「生きた歴史」として現在の生活との違いを体験できるのが最大の特徴となっている。その132の建物を使って当時の生活ぶりを紹介する役者としてボランティアを64名ほど採用している。また、屋内の展示は、700年の歴史を家屋、生活、海洋部門、水との戦い、歴史的地理に分けて紹介している。予算は年間約680万ユーロであり、そのうち70%は、科学文部省からの補助で運営されている。1993年までは国の機関であったが、1994年からは財団の形態に移行した。入館者数は年間約26万人、近年は減少傾向にある。入館者減は、余暇の多様化が影響していると思われる。そのため、個人・団体・学校と3つの市場に分けて捉え、それぞれのニーズを調査しマーケティングマネージャーを設置し新しいプログラムの立案を検討している。

全体の入館者のうち、10%が学校関係であり、当館としても子供をメインターゲットとしているため、子供向けの教育プログラムに重点を置いている。また、年間テーマを作成し、入館者とコミュニケーションをとりやすいように工夫している。

【ゼンケンベルク博物館（ドイツ）senckenberg.uni-frankfurt.de】

1817年、生物学研究所として設立。恐竜、植物進化、人類進化、古代エジプトのミイラ、地球システム、鯨、変わりゆく地球などの展示がある。

その主な目的は、研究所機能である。

研究部門と博物館部門とは、それぞれ独自性が強く、別組織となっている。研究部門の予算は、国・県・市からの補助金で成り立っている。博物館部門の管理経費は、ゼン

ケンベルク協会からの補助金で成り立っている。日本の財団設立のような形態であると思われる。

当館においても、来館者に対して、アンケートを実施し、その結果に基づいて館としての目標を設定している。

【自然史博物館（オーストリア）www.nhm-wien.ac.at/NHM/index.htm】

ウィーンにある自然史博物館。化石、隕石、動物学、先史時代部門などに分類されており、恐竜や昆虫、霊長類などの標本が展示されている。予算は、年間約1億5千万シリング(約15億円)。入館者数は、年間約35万人。そのうち10万人は、学校関係で占められている。

目的としては、本物を見せて、歴史の遺産として今があることを教えることを主眼としている。そして、そのきっかけとなるように考えられていて、3Dといったバーチャルなものも多用するが、それはあくまで仮想現実であり、バーチャルから現実を学ぶように趣向を凝らしている。



自然史博物館(オーストリア) 3D映像の説明をうける

広報活動は、積極的には行っていないが、ジャーナリストや広報誌関係者をガイドツアー等に招待し、関係雑誌等に掲載してもらっている。学校関係にもインフォメーションを流し、ガイドツアー等を行っている。

【こども博物館（オーストリア）www.kindermuseum.at/noflash.html】

美術館やイベント会場などを併せ持つミュージアム・クォーター・ウィーン内にあり、2001年10月に現在の場所に移ってきた。オーストリア初のハンズオン中心の展示や子供のためのプログラムを行っている。

来館者は、年間約10万人。対象としているのは、0歳から12歳ぐらいまでと考えている。子供たちが見たり聞いた

りして感覚的に体験できる所、そして遊びながら学べる所として運営している。また、テーマとしては、「日常」であり、子供たちの芸術の感覚を磨くことをその目的としている。予算は、年間約1500万シリング(約1億5千万円)、そのうち2/3はウィーン市からの補助金である。

「入館者を増やすことも重要であるが、当館では、文化を学ぶこと(楽しむこと)に主眼を置いている。」との説明が印象的であった。

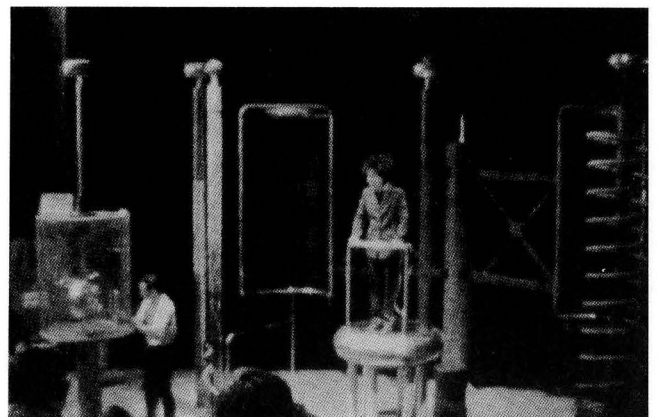
国立科学博物館 宮田 和幸

II. 展 示

【発見の宮殿】

発見の宮殿の展示場では、スイッチ操作などによって現象を見せる展示装置や資料の展示もあるが、一番力を入れているのは演示実験だった。他の科学館でも演示実験が行なわれているが、演示実験のコーナーは1ヶ所からせいぜい数ヶ所。ところが発見の宮殿は、各分野ごとに1～2ヶ所、館全体では十数ヶ所にもおよぶ演示実験スペースを用意している。各演示実験スペースは特定の実験専用に使えるため、大がかりな実験装置を組むことができ、ダイナミックな実験が繰り広げられていた。ただ、フランス人は議論好きなのか、日本の演示実験に比べて話が非常に長く感じられた。

特別展は、小規模から大規模なものまで合わせると、年に8～10テーマ行なわれている。テーマに関連する企業とのタイアップなどにより、費用の軽減もはかっているということだった。しかし、訪問時はあいにく入れ替え時期にあたっていて、特別展は行なわれていなかった。また、建物がバリエーション万博の時に「何にでも使える建物を」ということで建設されたため、逆に科学館というひとつの用途だけに



発見の宮殿の演示実験

使うには、特別展の入れ替えに苦勞するなど不便な点もあるということだった。

大阪市立科学館 長谷川 能三

【科学産業都市】

自然科学や最先端の技術について楽しみながら学ぶことをコンセプトにしている科学産業都市 [Cité] の展示ゾーンは、「エクスプローラ」と「子ども都市」から構成されている。

「エクスプローラ」は、トップライトと照明設備を効果的に調和させた大展示空間に、基礎科学から宇宙科学、医療技術や航空工学等まで200～300のアイテムで、目を見張る広範な内容を展示している。しかも3年毎に時代に即した展示テーマも取り入れ、現在の「バイオテクノロジー」から、次回の「地球をどう管理するか」を企画中とのことである。開催中の企画展「人間の変身」では、展示内容もさることながら、カーテンウォールによる曲線を使った空間構成の演出には、とても斬新な印象を受けた。また特別展として、科学的、文化的アプローチで若者に好評を博した「毛髪科学」や、京都2003国際水のフォーラムを記念しての計画中という「水の展示」など、Citéのユニークな企画力に今から期待をしている。

「子ども都市」は、幼児期からの科学教育を目指した先進的な展示施設で、「3～5才」、「5～12才」の二つのゾーンに分かれている。「もしも動物だったら」など多くのハンズオン展示物を遊びながら、科学する喜びが体感できる構成で、子どもたちの生き生きとした姿を目の当たりにし、この施設の素晴らしさに改めて感心をさせられた。この他に電気の基礎を学ぶ展示室もあり、子どもたちの賑やかな声は止むことがなかった。

仙台市科学館 柴田 賢蔵



「子ども都市」

【ライデン博物館】

エントランスは古い建物「ベストハウス」で、内部にはオランダ国内の動植物や地質学に関する資料が閲覧できるネイチャーインフォメーションセンターや充実したブックショップがある。二頭のサイが並ぶゼブラブリッジを渡ると展示スペースにでる。1階「原始のパレード」は、誕生から現在に至る地球の歴史や生物の進化に関する資料が化石を中心に展示されている。また、床から天井にかけて10万個の電球を使った系統樹が立ち上がり、2階の展示につながっている。2階「ナチュラリストーリーシアター」は、現生の動植物が1階の系統樹と関連して展示されている。哺乳類・鳥類は剥製がオープンに展示され、間近で見ることができ、入口付近に体毛の抜けたロバの剥製がおりてあり、「さわるとこのようになってしまいます」と表示されており、注意を促しているのが興味深かった。この他、岩石・鉱物のコーナーや地球のシステムを説明した展示、生物の生活や行動に関する展示などがある。

隣設された収蔵庫「コレクションタワー」は20階建てで、シーボルトの標本をはじめ81万点以上の動物標本と、28万点あまりの化石・岩石・鉱物標本が収められている。

群馬県立自然史博物館 綿貫 攻

【ゾイデル海博物館】

1932年、湾口に完成した大堤防がかつてゾイデル海と呼ばれた入江を淡水化したことによって湾岸文化は大きく変革した。700年続いたこの文化を後の世代に伝えることを目的としたこの博物館はその地理や歴史資料を紹介した屋内施設と当時の家屋を移築再現した村々による屋外施設で構成されている。特徴的なのは、これらの再現された漁村で100年前の時代感覚のままの“村人”に扮した役者が実際に“生活をしている”ことだ。来館者にとって、当時の生活習慣をそのまま実践している樽職人や漁具作り職人と直接話をしたり食事をしたりするのは、新たな発見のほかにちょっとした戸惑いを感じる(例えば、「自動車に乗ってきたんだ」というと「自動車ってなんだ?」と聞き返されたりすることもあるようだが、こういったことも含めてまさに生きた歴史を体験することができる仕組みになっている。ここでは、展示手法に“エモーション”を取り入れていくという館の姿勢がうまく反映されており、さらに、「時代や地域による文化の多様性を紹介しながら、訪れた人々(親

子、祖父母と孫など）どうしのコミュニケーションの場として活用してもらいたい」という館のねらいが明確に具現化されている。

丹青社 加藤 剛

【ゼンケンベルク博物館】

ドイツ最大の自然史博物館と聞いていたが、予想していたほどではなかった。しかし、ドイツ三畳系最下部の赤色砂岩をふんだんに用いた壁や柱は、古めかしく重厚である。

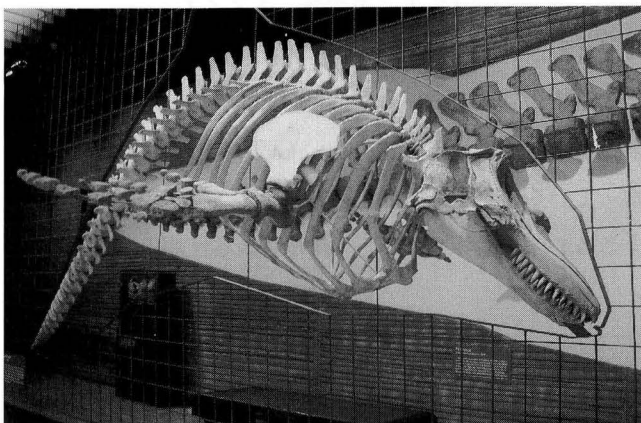
展示室は3フロアからなり、1階が化石と地質、2階が陸生脊椎動物と植物、3階が魚類と無脊椎動物となっている。展示面積が最も広い1階は15室からなり、恐竜、メッセル産化石、ベリンガーの偽化石、人類、クジラやゾウの骨格などが印象に残った。

展示ホールをディスコや誕生パーティーなどに有料で貸し出すこともあり、よい収入になるという。団体には有料で案内もつける。2階と3階はそれぞれ8室からなり、2階では剥製の伝統的ケース展示やジオラマ、3階ではタカアシガニなどの甲殻類が印象に残った。

1階は2、3年後には明るい雰囲気改修する計画があり、スポンサーを物色中である。新展示では、ガラスカバーのないケースや、上から恐竜を見下ろせる透明エレベーターの設置などが考えられている。

建物のわきには地下へ降りる階段があり、かつて地下鉄に使われていたトンネルが収蔵庫として再利用されている。博物館には研究所とゲーテ大学が隣接し、三者の長年にわたる連携の蓄積が展示にも生かされている。

埼玉県立自然史博物館 本間 岳史



ハクジラの骨格

【自然史博物館】

館内全体の展示は、徹底した分類展示が中心で、展示のキャプションは、最小限にとどめられ、細かな解説はない。5年前から「生きている生物の飼育展示」を始めている。また、マイクロシアター（微生物の劇場—顕微鏡の中の世界—）も新設されている。水槽内での動物の飼育展示や微生物の世界の紹介は、小さな子どもたちの間でとても人気がある。

動物の展示室は、他の展示と比較して分量の多い展示となっている。系統的な分類に従い、標本類はほぼ全世界の動物を網羅している。

地学及び古生物標本展示室は、地質年代に沿って、その時代を代表する化石類が展示してあり、教科書的な進化の道筋をたどることができる。

鉱物・岩石・隕石の展示は、フランツ I 世の収集した鉱物標本をはじめ、動物同様に分類展示がなされている。展示標本の質及び数は世界でも屈指のコレクションといえる。隕石展示室は、空気調整をするために、隣接する鉱物・岩石展示室とガラスの扉で仕切られていた。



自然史博物館の鉱物・岩石・隕石展示

考古学展示で注目されているのは、ドナウ川河畔ヴィレンドルフ遺跡から出土した石灰岩の「ヴィーナス」像で、これは、旧石器時代の作と考えられている。

いずれにしても、資料収集の素晴らしさを反映した展示であった。

鳥取県立博物館 平尾 和幸

【こども博物館】

様々な博物館、美術館が集合している巨大規模のアート地区「ミュージアム・クォーター・ウィーン」の中にある、オーストリア唯一のこども博物館。世界最大のエゴン・シ

ーレ・コレクションで知られている「レオポルド美術館」もこの並びにある。2001年10月に現在の場所に移り、近代的で真新しい施設である。

サイエンスをあまり意識せず、遊びの中で研究・学習ができるプログラム作りに重点を置いている。子供達の日常生活や時間、芸術がテーマとして作られているので、子供たちは勉強していることに気づかず、遊びながら学ぶことができる。展示物の構成は心理学者の意見も取り入れ、どれも簡単に操作でき、解説に頼らないハンズ・オンタイプのものばかりである。大小様々な形のトンネルや、すきまを通して内側の壁を触ったり、質感を感じることで、自分の置かれている空間や場所の広さを体験できる。簡単な3D映画を制作し、映画の中に自分を出演させることで、位置や空間の活用の仕方を自然に学べるようになっている。子供達の自主性を育てるという館自体の方向性がはっきりと見え、展示にも充分反映されており、年2回という展示更新にもかかわらず、展示全体にまとまりが見られた。

むつ科学技術館 川西 美智子

III. 教育活動

【発見の宮殿】

この博物館の教育普及プログラムの代表的なものは、20～30人の見学者の前で実験を行う「実験ショー」、12人ぐらゐの参加者を集めシャンプー等を作らせる「アトリエ」、200～300人を集め時代の先端について話し合う「サイエンスカフェ」及び月刊誌の発行である。人気の高いねずみが迷路を進む実験と静電気の実験の2つを見学したが、1日に80～100もの「実験ショー」が行われていた。平日に学校団体として見学し、再び週末に家族連れで来館する子どもが多いことから、感動を体験できるようなプログラム作りをしていると感じた。

国立科学博物館 所 真次

【科学産業都市】

教育普及の観点からこの科学産業都市を観ると、エクスプローラ（探検部）と呼ばれる、常設展示施設と子ども都市と呼ばれる体験コーナーが特筆される。

エクスプローラは、「宇宙・生命・物質・コミュニケーション」の4部門からなり、現代科学・技術が紹介されている。

子ども都市では、年齢（3-6、6-12）に応じて2つの

空間が用意され、「生き物・人・自分の体・水・機械」をテーマに、遊びを通して科学の楽しさを体験できる。

また、学校からの来館者が年間10万人あり、連携を強く意識した取り組みがなされている。例えば、1週間の教員研修会（100名）や2日間の最新科学の学習会（500名）が文部省と共同で実施されている。

次代を担う子ども達が、最も重要な来館者として考えられ、早くから、科学・技術に興味を持てるような施設であった。

岐阜県先端科学技術体験センター 溝口 喜久

【ライデン博物館】

この博物館のスタディールームには、身近にいる動物が何を食べているかを体験できるユニークな展示物がある。そこは、「生き物たちのレストラン」とネオン看板があり、子ども達には大人気である。

ブタ、ウサギ、シカ、カラス、フクロウ、カブトムシなど、十数種の動物のぬいぐるみが石の上に座っている。そばのバスケットには、現物に形を似せたエサがあり、色分けし名前が表示してある。



ライデン博物館 オランダ

子ども達は、エサを取り動物の口の近くに持ってゆくと、その動物が好んで食べるものは口を大きく開けるので、その中にエサを入れる。食べないものは口を閉じたまま首を振っていやいやをする。口の中に入れられたエサは、ぬいぐるみの中を通して台の下へ排出される仕組みに感心した。

防府市青少年科学館 佐伯 陽一

【ゾイデル海博物館】

アムステルダムから北東60kmに、港町エンクハウゼンがある。この入江は、かつてゾイデル海と呼ばれ、バルト海諸

国との交易やニシン漁などで賑わったが、水害を防ぐため1932年に大堤防を建設したためアイセル湖という淡水湖になった。ゾイデル海博物館は、ここで栄えた町並みと文化の保存を目的とした博物館である。17haの屋外展示場(132棟の施設)、と2800㎡の室内展示場到大別され、年間26万人の来館者がある。屋外展示場の職員は19世紀当時の姿そのままに、タル職人や漁具作りの職人の家や生活の様子を忠実に再現し、来館者とのコミュニケーションを深めている。



ゾイデル海博物館 オランダ

また、室内展示場にはレストランも併設され、当時の伝統料理が味わえ、衣・食・住すべてにわたる環境演出が教育普及活動となっている。

船の科学館 飯沼 一雄

【ゼンケンブルク博物館】

この博物館の教育に対する取り組みは並々ならぬものである。入館者に応じたプログラムがあり、小学生の場合、研修を受けた大学生が担当する。学校からのテーマがある場合は専門家や、大学の教授が説明するシステムである。(案内料金は10人1組で20ユーロ)

注目したいのは誕生日パーティのプログラムである。年齢に応じ、青虫から蝶が出るぬいぐるみや、胎児の模型などを用いるプログラムや缶バッジを自分で制作して持ち帰ることが出来る準備がしてある。食べ物が必要な場合は保護者が準備する。日本の科学博物館でも実施したいプログラムであった。

出雲市子ども科学館 丸 功治

【自然史博物館】

博物館として人を引きつける魅力は「歴史・本物・3D・現実」である。この館は、長い歴史を保有しながら、巧み

にこれらを配置し、新しい取り組みをしている。

例えばマイクロ・シアターでは、小さい生物を顕微鏡で覗くにとどまらず、立体映像として拡大映写している。子ども達には壮大で夢が広がることになり、生き物と共に生活したいという要望をそそることになる。

館長の話では、来館者は年間35万人であるが、旅行者にもこの歴史を見てもらい、80万人を目標にしていると話された。また、2005年の名古屋万国博には宇宙に広がるイメージで出展予定と話された。

出雲市子ども科学館 丸 功治

【こども博物館】

かつての王宮既舎後建てられた巨大複合文化施設「ミュージアム・クォーター・ウィーン」内にあり、「日常・時間・モード、そして子ども達の芸術」を基本コンセプトとして2001年に開館した。



こども博物館 オーストリア

フロアは4つに分かれ、写真の Room for room は鏡の迷路や暗くて狭い道など7～12歳の子ども達が独創性豊かに自由に遊べる場所となっている。また、アトリエは3～12歳の子ども達が絵を描いたり簡単な造形が行える場所であり、マルチメディアラボは、8～14歳対象の自分たちが作った3D映像をプロデュースしたり、演じたりできる非常に人気の場所である。さらに、この国には海がないため親子で遊べる「海」をテーマにしたスペースもある。

年間10万人の入館者の特徴として、リピーターが非常に多いこと、併設される美術館などに訪れた後、併せて来館することがあげられる。この施設は、日本いう児童館的な要素の多い施設だったと思った。

盛岡市子ども科学館 佐々木 瑞穂

海 外 ニ ュ ー ス

安井亮・桜美林大学講師(博物館学)

イギリスで、障害者にとって利用のしやすい博物館を紹介したホームページが登場

イギリスの「ザ・アートハウス」は、1995年の設立以来、障害者による芸術品の創作活動の普及活動を行っている非営利組織である。活動に加わっているメンバーは、障害をもったアーティストが中心である。さる2001年11月に、障害者にとって利用のしやすい博物館を紹介したホームページを立ち上げた。現在、案内情報が掲載されている館は全部で100館近くあり、そのほとんどは美術館系であるが、中には国立科学産業博物館機構(本部: ロンドン科学博物館)の一部である国立写真・映画・テレビジョン博物館(ブラッドフォード市)やガラス製作所の跡地にできたナショナル・ガラス・センター(サンダーランド市)のような美術館でない施設も含まれている。掲載されている情報は、いずれも車いすを利用した障害者や視覚障害者、あるいは聴覚障害者が実地踏査で得たものだ。ちなみに、国立写真・映画・テレビジョン博物館に関して、障害者のために提供されている情報は次の通りである。開館時間、休館日の案内、最寄りの駅とバス停留所の案内、館周辺の略図、住所、ホームページ、電話番号、ファックス番号、メールアドレス(館の公式サイトにはない!)のほかに、「館内の3ヶ所に駐車場がある」・「正面玄関は車いすで入れる」・「館内の随所に階段がある」・「車いす利用者用のトイレあり」・「車いす利用者に配慮したエレベータあり」・「視覚障害者用の録音テープ解説あり」・「介助犬の入館が可能」・「点字解説はない」・「観覧料は無料」・「障害者のためのワークショップが随時行われている」・「研究設備は障害者に配慮されている」・「ルーペと懐中電灯が可能(弱視者への配慮)」・「障害者に配慮した公衆電話の設置」・「障害者に配慮したレストランあり」・「障害者に配慮したミュージアム・ショップあり」。また、障害者が行った実地調査の詳しいレポートおよび、障害者にとっての利用のしやすさ(アクセシビリティー accessibility)についての評価査定のレポートも掲載されている。今後、科学系の博物館の情報も増やされるようだ。

<http://www.goodgalleryguide.com/>

英バーミンガムに、新しい科学博物館が開館

イギリス・イングランド中部の工業都市バーミンガムに、総工費5,000万ポンドの科学博物館『シンクタンク Thin-

ktank』が、2001年9月29日に開館した。新しい施設は、英政府のミレニアム基金を受けて、バーミンガム中心部に進められていた再開発地区に完成した複合施設『ミレニアム・ポイント』の中に設けられ、12,500㎡を越える延べ面積を有し、ロンドン以外の地域では最も規模が大きい博物館の一つである。8,000㎡の展示面積では、200以上の体験学習型の展示装置を使って、科学とバーミンガムの都市形成等について紹介している。「The Street」では、日常生活を支えている科学を紹介している。「Kids in the City」は、対象である7才未満の子どもに、都市機能を支えるさまざまな職業についての初歩的な理解を得てもらうことが目的になっている。ここでは、郵便配達員、技師、料理人、消防士、警察官、看護婦等といった職業のロール・プレイングができる。「Things About Me」も、年少の子どもに、人間のからだの仕組みと働きについての知識を得てもらうことが目的になっており、視覚的な解説と、「手で触れながら Hands-on」学ぶという展示手法に重点を置いている。「Medicine Matters」は、やや年長の子どもを対象に、疾病の正しい理解と、遺伝子と最先端の外科手術について知ってもらうことが目的になっている。ここでは、コンピューターを使って、臓器移植など倫理に関わる問題に挑戦できることが特色になっている。「City Stories」では、バーミンガムの都市の形成と、そこに住む人々のくらしの変遷を紹介している。「Power Up」は、産業革命の主要な産物である蒸気機関を紹介しており、いくつかの蒸気機関が実際に稼働している様子が見れる。「Making Things」では、産業革命以来、イギリスの主要な工業都市であるバーミンガムで、発明され、そして世界に広がった工業製品と、それらを製造した機械を紹介している。「Move It」では、バーミンガムで製造された航空機、蒸気機関車および自動車を紹介している。中でも、美しいフォルムをもった蒸気機関車「シティ・オブ・バーミンガム」や第二次世界大戦で活躍した「スピットファイアー」等の歴史的な戦闘機は目玉展示になっている。「Future」では、最先端技術を紹介しながら、未来での生活がどうなるかを描いている。ここでは、ロボット、センサー技術、医学、宇宙開発といった分野が取り上げられている。「Wild Life」では、動物の環境への適応について学ぶことができる。同館には、それ以外

にアイマックス劇場も設けられている。初年度の年間入場者数(予想):30万人。正式名称:バーミンガム科学と発見の博物館

Birmingham Museum of Science and Discovery

<http://www.thinktank.ac/>

英マンチェスターに、都市形成をテーマにした博物館が開館

マンチェスター市中心部の再開発地域に、マンチェスターの都市の形成をテーマにした博物館が、マンチェスター市によって2002年7月に開館される。総工費6000万ポンドの「アービス Urbis」(正式名称:Museum of the Modern City)は、最新のマルチメディア展示を使って、マンチェスターの都市形成と、マンチェスターに住む人々の暮らしの変容を紹介することになっている。またマンチェスター市内で進められている再開発によってイギリスで最も現代的な都市に生まれ変わろうとしているマンチェスターの将来像も紹介される。イアン・シンプソンによって設計された建物は、下記のホームページ等で見れる。

<http://society.guardian.co.uk/gallery/0,9730,647219,00.html>

<http://www.manchesteronline.co.uk/ewm/001ewm/021b-millnmqtr/>

英マンチェスター科学産業博物館、一般観覧者への収蔵品公開を開始

工業都市マンチェスターの産業の歴史資料を精力的に収集しているマンチェスター科学産業博物館に、一般観覧者の閲覧利用を可能にした新しい収蔵品センター(Collections Centre)が2001年9月にオープンした。2400㎡の広さをもつ収蔵品センターでは、膨大な点数の収蔵品の約三分の一を保管した収蔵庫をはじめ、この収蔵庫から一般利用者が閲覧請求した実物資料を手にとって見れるコーナーと、コンピューターを使ったデータベース検索や館内の情報センター所蔵の調査報告書やアーカイブズを使って実物資料についてより詳しい悉皆調査ができるコーナーが設けられている。また資料の修復室、資料登録室、資料スタジオも設けられており、これらはいずれも、一般利用者が窓越しに中で行われている作業の様子を見れるようになっている。従来、イギリスの博物館の多くは、館内の収蔵部門に一般利用者の立ち入りを許す習慣がなかった。また多くの場合納税者でもある一般利用者が、税金がどんな形で使われて

いるかを知ることにも制限があった。今回マンチェスター科学産業博物館で設けられた収蔵品センターは、従来の収蔵庫の保存管理機能自体に、新たに公開という機能を加え、収蔵品をより多くの市民の利用に供するということで注目されている。この新しい施設のもう一つの大きな特色は、インターネットによって、だれでも収蔵品管理データベースにアクセスが可能になっていることだ。なおこの収蔵品管理データベースは、この分野において大手であるところのKEソフトウェア社(豪州メルボルン www.kesoftware.com)が開発を手がけた。

Museum of Science and Industry in Manchester

<http://www.msimm.org.uk/nonshocked/collection-centre/>

大英自然史博物館、野生生物を撮影した優れた写真家を表彰、ウェブ上で作品を公開

『BGワイルドライフ・フォトグラファー・オブ・ザ・イヤー BG Wildlife Photographer of the Year』は、BBCワイルドライフ・マガジンと大英自然史博物館によって運営され、野生生物を撮影した優れた写真家を毎年表彰している世界最大で、しかも最も権威のある写真コンテストだ。このコンテストの歴史は古く、1964年にBBCワイルドライフ・マガジンの前身であった「アニマル誌」によって始められ、後に1984年に大英自然史博物館が運営のパートナーとなった。このほど、1989年から2001年までの入賞作品の全部を紹介したホームページがウェブ上で見られるようになった。

<http://flood.nhm.ac.uk/cgi-bin/wildwin/2001/htdocs/images.html>

英国陸軍の博物館を案内したホームページが登場

イギリスには軍事博物館の数は多く、中でも英国陸軍は100館以上の博物館をもっている。従来これらの博物館には広報の予算がつかないところが多く、国民の間であまり知られることは少なかったが、このほど国防省とロンドンにある国立陸軍博物館からの助成で、これらの博物館の案内情報を提供するホームページが開設された。大部分の博物館は、駐屯地あるいは陸軍学校の中に設けられているものの、一般に公開されている。障害者の利用のしやすさに関する情報も掲載されている。

<http://www.armymuseums.org.uk>

* (やすい・りょう) E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

5月6月の特別展

岩手県立博物館

巡回展「すばる望遠鏡展」 5月25日～7月19日

久慈琥珀博物館

「～ゴールデン・ジャングル～虫入り琥珀」
4月20日～5月6日

「～ロマンシング・ストーン～琥珀の美学」 6月15日～23日

地質標本館

「切手と鉱物—世界の切手コレクションから—」
4月16日～6月16日

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

第24回企画展「コリアの自然史—大陸と日本を結ぶ生きものたち—」
3月16日～6月16日

栃木県立博物館

第72回企画展「とちぎの宝 ものがたり —文化財曼荼羅—」
4月27日～6月16日

テーマ展「エビ・カニ・ヤドカリ」 4月20日～10月6日

群馬県立自然史博物館

第16回企画展「ことばで遊ぶミュージアム」
3月9日～5月12日

埼玉県立自然史博物館

企画展「ちちぶの鳥やけものたち」 4月2日～6月9日

千葉県立中央博物館

企画展「深海魚の不思議」 4月27日～6月2日

交通博物館

特別展「絵地図でたどる鉄道の旅～沿線案内図への招待～」
3月19日～5月12日

機械産業記念館（TEPIA）

「循環型社会を目指す新技術展～豊かなエコライフの実現に向けて～」
4月5日～7月26日

国立科学博物館

企画展「ノーベル賞100周年記念展」 3月19日～6月9日

たばこと塩の博物館

特別展「武家の精華～八代・松井家の美術工芸～」
4月14日～5月26日

企画展「日本を見つけた。江戸時代の文華」
6月7日～7月7日

東京都高尾自然科学博物館

特別展示「日原の森—原生林に生きる—」
4月6日～7月7日

馬の博物館

テーマ展「くらべ馬からダービーへ」

テーマ展「ピカソと馬」 5月25日～7月14日

神奈川県立生命の星・地球博物館

企画展「新収資料展」 4月27日～6月2日

上越市立水族博物館

春季特別展「メダカのくらす水辺の世界」
4月20日～5月26日

新潟県立上越科学館

「宇宙展2002」 5月11日～26日

富山市科学文化センター

企画展示「わくわく宇宙展～“きぼう”の世紀へ～」
4月13日～5月6日

写真展「トンボの生活」 5月11日～6月9日

いしかわ動物園

春の特別展「石川の自然—加賀と能登」 3月20日～5月6日

佐久市子ども未来館

開館1周年記念特別企画展
不思議体験！サイエンスボックス展 3月15日～5月6日

名古屋市科学館

特別展 目で見える「がん」展 4月13日～6月30日

豊橋市自然史博物館

収蔵資料紹介展「いん石と世界最古の岩石」
4月20日～6月30日

トヨタ博物館

特別展「アメリカン・カー・グラフィティ 50s-60s」～コンパクトカーの登場～
4月23日～7月7日

滋賀県立琵琶湖博物館

水族企画展「滋賀のカメたち」 3月21日～5月19日

滋賀県立水環境科学館

リニューアル記念特別展
「“自然&命”子どもたちへのメッセージ」
～垣見真由美 遊彩画展～ 4月27日～5月31日

兵庫県立人と自然の博物館

企画展「ワンダフルカラー」 2月17日～6月16日

明石市立天文科学館

「星団・星団（メシエ天体）写真展」 4月10日～5月26日
「子午線標識写真展」 6月1日～7月14日

倉敷市立自然史博物館

特別陳列「南アルプス北岳の高山植物写真展」
4月2日～6月16日

吉備高原ニューサイエンス館

特別展「マグネット展」 4月27日～5月6日

広島市江波山気象館

気象記念日特別イベント「お天気なぜ? なに! サイエンススタジオ」(仮称) 6月1日～30日

防府市青少年科学館

企画展「山口県の化石展」 4月27日～6月9日
「未来の科学の夢絵画展」 6月22日～7月7日

愛媛県立博物館

テーマ展「ワシタカ・フクロウのなかま」 4月2日～5月26日

徳島県立子ども科学館

企画展「立体映像と視覚のふしぎ」 4月27日～5月7日

福岡県青少年科学館

「世界のおもちゃ・大集合!」展
～見せて見せて! 動きの秘密～ 4月13日～5月12日

佐賀県立宇宙科学館

企画展「アニメーションランド」 4月27日～5月26日

展示更新

栃木県子ども総合科学館

[展示室名] 情報の科学

[更新の展示面積] 300㎡

[主な新展示物] 「タイムスライスカメラ」「声で答えるクイズ」
「指紋のかぎ」「三次元スキャナー」

[オープンの期日] 平成14年3月23日

[準備期間]

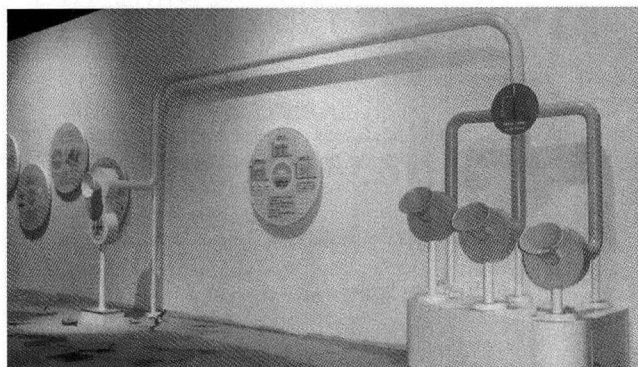
基本設計 平成13年4月～9月

実施設計 平成13年10月～12月

施工期間 平成13年12月～平成14年3月

[担当業者] 設計・施工 株式会社丹青社

[総工費] 123,690,000円



栃木県子ども総合科学館

歴史体感

ロボットが誘う、歴史伝説の世界

伝統文化の保存と伝承を目的とした施設、建設にも積極的に参加しております。



◀閃光に驚き、バランスを失う武士たち。



▲刀が振り下ろされるその瞬間、目が眩むばかりの閃光が走る。

佐渡歴史伝説館/日蓮聖人 佐渡法難

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・設計・制御演出・施工

kokoro
株式会社 ココロ

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

美術

は く 製

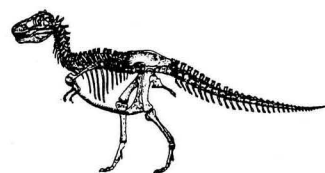
〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎047-337-5678
☎047-337-5883
FAX 047-338-1978
本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



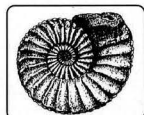
ティラノサウルス・REX

株式 株式会社 ゼネラル サイエンス
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム: 紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

髯東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745

http://www.tokyo-science.co.jp E-mail:info@tokyo-science.co.jp

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)

札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡

URL http://www.tanseisha.co.jp

ミュージアムの集客を強力にサポート
新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】



イベント情報ポータルサイト

EventNAVI

http://www.eventnavi.ne.jp

全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。
企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご活用ください。

イベント情報
無料登録受付中!

株式会社 乃村工芸社

本 社: 東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話 03-3455-1171(代)
ホームページ http://www.nomurakougei.co.jp

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工
ISO9001認証取得(文化環境カンパニー) ISO14001認証取得(MCカンパニー)



INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT

ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3 シグマ神保町4階
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター

河野光子

滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長

高橋啓一

ミュージアムパーク茨城県自然史博物館

資料課長 都賀和男

国立科学博物館 普及部 普及課長

武田良正

国立科学博物館 普及部 普及課専門職

原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館普及部普及課 村上 剛 久永美津子

Tel.03-5814-9857・9858 Fax.03-5814-9898

発行日 平成14年5月1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社